

2022 公立入試問題・社会 入試分析

【出題傾向】

歴史13問、地理17問、公民7問の合計37問で例年通りの問題構成でした。記述問題の配点は、20点分で40%と高い割合を占めています。また、記号問題が15問、18点分となっており、細かな知識や資料の読み取り方が問われる問題も多く出題されています。

【問題分析】

1. 歴史（18点）

一問一答4問は基本レベルからの出題でした。指定の資料から適切なワードを取り出して解答する4問はやや難問でした。ただし、むぎ進模試や対策問題が的中しました。

2. 日本地理（12点）

解答までに時間のかかる地図、表、グラフの読み取りが多く出題されました。特に（4）の果実の国内生産量と輸入量の読み取り問題は、自給率の変化から読み取るため高難易度でした。むぎでの資料読み取り問題対策が的中した問題でした。

3. 世界地理（9点）

時差の問題が9年ぶりに出題されました。ただし、経度の差と時間の戻し進みから解答を導き出す基本的な問題でした。なお（4）のような環境問題を資料やグラフから考えていく問題は、これから主流になるかもしれません。

4. 公民（11点）

例年通り複数の資料とグラフから読み取る論述問題からの出題でした。なお、選択肢が8つある記号問題は初出題でした。

【今後の対策】

- ① 教科書内容を正確に理解し、覚えていくことは社会学習の基本中の基本です。
- ② 環境問題やエネルギー政策などの社会的事象や問題に興味関心を持ち、正しい一般教養を身に付けていく必要があります。
- ③ 資料問題や記述問題の解答の作り方に慣れることです。むぎ流の“解き方”や“覚え方”を繰り返し練習することでマスターできます。